



知っておきたい

松江市名誉市民



名誉市民章

松江市では、市民又は本市において縁故の深い方で、公共の福祉の増進や文化の進展に寄与した方を「松江市名誉市民」とし、その功績を称えています。現在24名の方にこの称号が贈られています。これからシリーズで1名ずつ紹介していきます。郷土の誇りとして、いつまでも私たちの心に刻んでいきたいですね。

なかむらよしじろう

第1回 中村芳二郎氏 [1921~2000]

(平成11年11月10日 顕彰)



【略歴】

大正10年12月22日 松江市灘町で出生
島根県商工労働部長、島根県教育委員会教育長を就任後、昭和52年10月から3期12年にわたり松江市長。市財政再建、都市基盤整備、産業振興に貢献。国体、市制100周年記念事業の第21回全国菓子大博覧会の成功に尽力。

(松江市勢要覧より)

中村松江市長時代に松江市総合文化センターは建設され、1986年、その中に松江市立図書館が開館しました。市長退任後、1994年には松江市総合文化センター館長に就任。松江市立図書館にとって、とても関係が深い方です。


主な碑・銅像の所在地一覧

氏名	所在	区分	氏名	所在	区分	氏名	所在	区分
小泉 八雲	小泉八雲記念館前・千鳥南公園	文学者	松平 直政	県庁前	松江藩主	深田 清	大橋南詰	土木技師
桃 白鹿	天倫寺	儒学者	雨森 精翁	内中原小学校・床几山公園	儒学者	源助	大橋南詰	足軽
青山 竹居	天倫寺	書家	瀧川 亀太郎	武家屋敷	教育者	玄丹お加代	白湯公園	芸妓
田村 寧我	清光院	儒学者	前田 圭史	桐岳寺・八重垣神社	俳人	青戸 可明	白湯公園	川柳家
藤原 杏池	清光院	俳人	河野 天麟	普門院	儒学者	小林 如泥	常教寺	彫刻家
雷電為右衛門	月照寺	力士	佐川 雨人	普門院	俳人	山内 曲川	普門院・全龍寺・床几山公園	俳人
松平 宗衍	月照寺	松江藩主	福田 平治	北田町(旧愛隣会館)	社会事業に貢献	沢野 修輔	床几山公園	儒学者
門脇 友川	普門院・法眼寺	俳人	福田 与志	県立松江ろう学校・島根県立盲学校	教育者	森本 文斎	床几山公園	医師
内村 鱸香	末次公園	儒学者	堀尾 吉晴	大手前	松江城初代城主	梅 謙次郎	松江市総合文化センター	法学者
岸 清一	県庁前・雑賀町	体育功労者	清原 太兵衛	さいのかみ公園(佐太橋付近)	佐陀川開拓功労者	平塚 運一	松江工業高校前	版画家
若槻 礼次郎	県庁前	政治家	園山 俊二	岸公園	漫画家	安達 赤土	松江理容美容専門学校	俳人

<参考にした資料>『松江の碑を訪ねて』(くにびき学園第20期社会文化科/発行)、『松江の碑(松江市ふるさと文庫17)』(安部 登/著)、『島根県歴史人物事典』(山陰中央新報社/発行)

島根図書館 | 松江市島根町加賀1414番地 (島根公民館併設) | TEL (0852) 85-9088 | E-mail: shimane@lib-citymatsue.jp

東出雲図書館 | 松江市東出雲町掛屋1139番地 2 (東出雲ふれあい会館内) | TEL (0852) 52-3297 | E-mail: higashiizumo@lib-citymatsue.jp



松江市立図書館だより
編集・発行/松江市立中央図書館
〒690-0017 松江市西津田六丁目5-44
☎(0852)27-3220
2017年3月発行
https://www.lib-citymatsue.jp/
E-mail: chuou@lib-citymatsue.jp



堀尾吉晴

[1543 ~ 1611]

松江開府の祖

戦国武将。尾張(愛知県)の地に生まれ茂助と呼ばれました。関ヶ原合戦の功績により、出雲・隠岐24万石を与えられ、富田城(広瀬町)主となりました。やがて、松江へ城地移転を決定し、築城と城下町の建設を行いました。

(銅像 松江城大手前)

内容

- 表紙 堀尾吉晴公の銅像
- 見開き 松江ゆかりの人々 - 館報ちどり第100号記念 -
- 裏表紙 郷土の葉 松江市名誉市民シリーズ「中村芳二郎氏」
主な碑・銅像の所在地一覧



没後120年
(2017)

にしだ せんたろう 西田 千太郎

【1862～1897】

中学校教諭、小泉八雲を支えた人

松江市雑賀町に生まれる。生家は松江藩士。沢野修輔の塾に学び、第一番小学（現在の雑賀小学校）、島根県尋常中学校と進みました。第一番小学時代には若槻礼次郎、岸清一とともに将来有望な俊才と期待されました。千太郎は、公私にわたりハーン（小泉八雲）の日本の暮らしの支え手となりました。誠実な人柄は八雲の心をとらえ、二人の友情は松江を離れてからも続きました。

36歳、若くして病により亡くなりましたが、千太郎の教育に対するあくなき探究心は、多くの教え子によって現在にひきつがれています。

参考資料

西田千太郎日記 島根郷土資料刊行会／発行
小泉八雲と松江時代 池野 誠／著
思い出の記 小泉節子／著

館報ちどり
No.70

わかつき れいじろう 若槻 礼次郎

【1866～1949】

島根県初の内閣総理大臣

松江市雑賀町に生まれる。小学校のころから両親の仕事を手伝い家事を助けながら通学しました。

常に勉強熱心だった礼次郎は、やがて帝国大学（現在の東京大学）法科大学に入学し、首席で卒業しました。

学生時代は積極的にスポーツにも取り組み、柔道は二段、弓道、剣道など文武両道に努め、ポートルースや登山も楽しみました。

大学卒業後は大蔵大臣、内務大臣を務め、大正15年と昭和6年は、2度にわたり総理大臣として内閣を組織しました。昭和5年ロンドンにおける軍縮会議には日本代表して参加するなど、困難な国家財政に立ち向かいました。83歳で亡くなりました。

参考資料

松江人物ものがたり 一近世・近代に生きた人たち 松江市教育委員会／発行
古風庵回顧録 若槻禮次郎自傳 若槻禮次郎／著
明治百年 島根の百傑 島根県教育委員会／発行

館報ちどり
No.78



銅像：県庁前

松江ゆかりの人々

館報ちどり第100号記念

館報ちどりは、おかげさまで第100号を迎えることができました。これからも親しみやすいテーマで情報をお届けしていきたいと思えます。今回は、「館報ちどり第100号記念」として、これまで館報ちどりに登場した人物と、作成にあたり参考になった本を紹介しします。

ふくだ よし 福田 与志

【1872～1912】

日本で初めて盲ろう教育をはじめた女性

鳥取市に生まれる。兄、福田平治の影響を受けた与志は、目や耳の不自由な子どもが学校へ通うことなど考えられなかった時代にありながら、幾多の苦難に見舞われますが、盲ろう教育を推進していくために山陰で初めて「松江私立盲啞学校」を創設しました。

しかし、寄宿舎が完成してまもなく体調をくずし、40歳のときに生徒たちに見守られながら亡くなりました。

参考資料

福田平治翁自伝 山陰社会事業の父 福田平治／著
ありのまま記 過去70余年懺悔に代えて 福田平治／著
花守りのひと 盲ろう児の未来を拓いた福田与志 まつえ女性史を学ぶ会／発行

館報ちどり
No.74



胸像：島根県立盲学校

げんたん かよ 玄丹お加代

【1842～1918】

松江藩の危機を救ったといわれる芸妓さん

松江藩士の娘として生まれる。お加代は松江藩を糾弾しようと派遣された山陰道鎮撫使一行の難題に機転を利かし、刀に刺したかまぼこを突き出されると平然として口で受けました。お加代の度胸に一行の態度は和らぎ、家老の切腹の危機を救ったといわれています。郷土の一大事を救った臨機応変の出来事は大阪でも芝居として上演されるなど全国的に知られることとなりました。

石橋町光徳寺に「お加代地蔵」とお墓があります。

参考資料

島根県歴史人物事典 島根県歴史人物事典刊行委員会／編
小説「玄丹お加代」 村松駿吉／作
松江開府400年 続 松江藩の時代 乾 隆明／編著

館報ちどり
No.87



胸像：白湯公園

没後350年
(2016)

まつだいら なおまさ 松平 直政

【1601～1666】

松江藩初代藩主

松平直政は、結城秀康の三男、徳川家康の孫にあたります。松江に入国した直政は、家老以下の諸役人に六カ条の方針を示し、社領、寺領の寄進、造営、教育をおこしました。また治水、産業開発などにも力を注ぎ松江藩政の基礎を築きました。66歳で亡くなりました。

参考資料

松江松平藩祖直政公と逸話 小林布善／著
増補松江城物語 島田成矩／著
松江藩 石井 悠／著

館報ちどり
No.74



銅像：県庁前

きよはら たへえ 清原 太兵衛

【1711～1787】

佐陀川開削の功労者

松江市法吉町に生まれる。太兵衛がつくった佐陀川は、宍道湖から鹿島町を通って日本海に流れています。松江藩に仕える太兵衛は、進んだ考えとすぐれた技術で日本海へ流すべき大工事を数万人の人々を指揮して工事にあたりました。全長12km、幅36mにも及ぶ容易ならぬ難工事でしたが、水害の苦しみは少なくなりました。今でも治水に役立っています。完成目前、76歳で亡くなりました。

参考資料

小説・治水の偉人 清原太兵衛 寺井敏夫／著
児童文学・川を作った人 清原太兵衛 村尾靖子／作 高田 勲／絵
清原太兵衛 清原太兵衛顕彰会／発行

館報ちどり
No.53



銅像：さいのかみ公園（佐太橋付近）

その やま しゅんじ 園山 俊二

【1935～1993】

松江出身の漫画家

松江市外中原町に生まれる。おりづる幼稚園、附属小学校、附属中学校、新制松江高校（現在北高校）、早稲田大学に入学後早稲田漫画研究会を創設し、『がんばれゴンベ』でプロデビューしました。『ギャートルズ』（第22回文芸春秋漫画賞受賞）、『がんばれゴンベ』（日本漫画家協会特別賞受賞）、『ペエスケ』は連載3764回で最終回。1993年、57歳で亡くなりました。

参考資料

園山俊二と心優しき仲間たち 朝日新聞／発行
「がんばれゴンベ」と園山俊二 城西ふるさと楽会・園山俊二を語る会／編
国境の二人 園山俊二／著

館報ちどり
No.31,45



銅像：岸公園

人物	号数	小泉 セツ	第66号
園山 俊二	第31・45号	西田千太郎	第70号
清原 太兵衛	第53号	玄丹お加代	第87号
岸 清一	第58・98号	堀尾 吉晴	第73号
小泉 八雲	第48・61・63・66・92号	松平 直政	第74号
福田 与志	第62号	若槻礼次郎	第78号

館報ちどりに登場した人物と号数